

第7章 個性あるまち

7 地域の状況

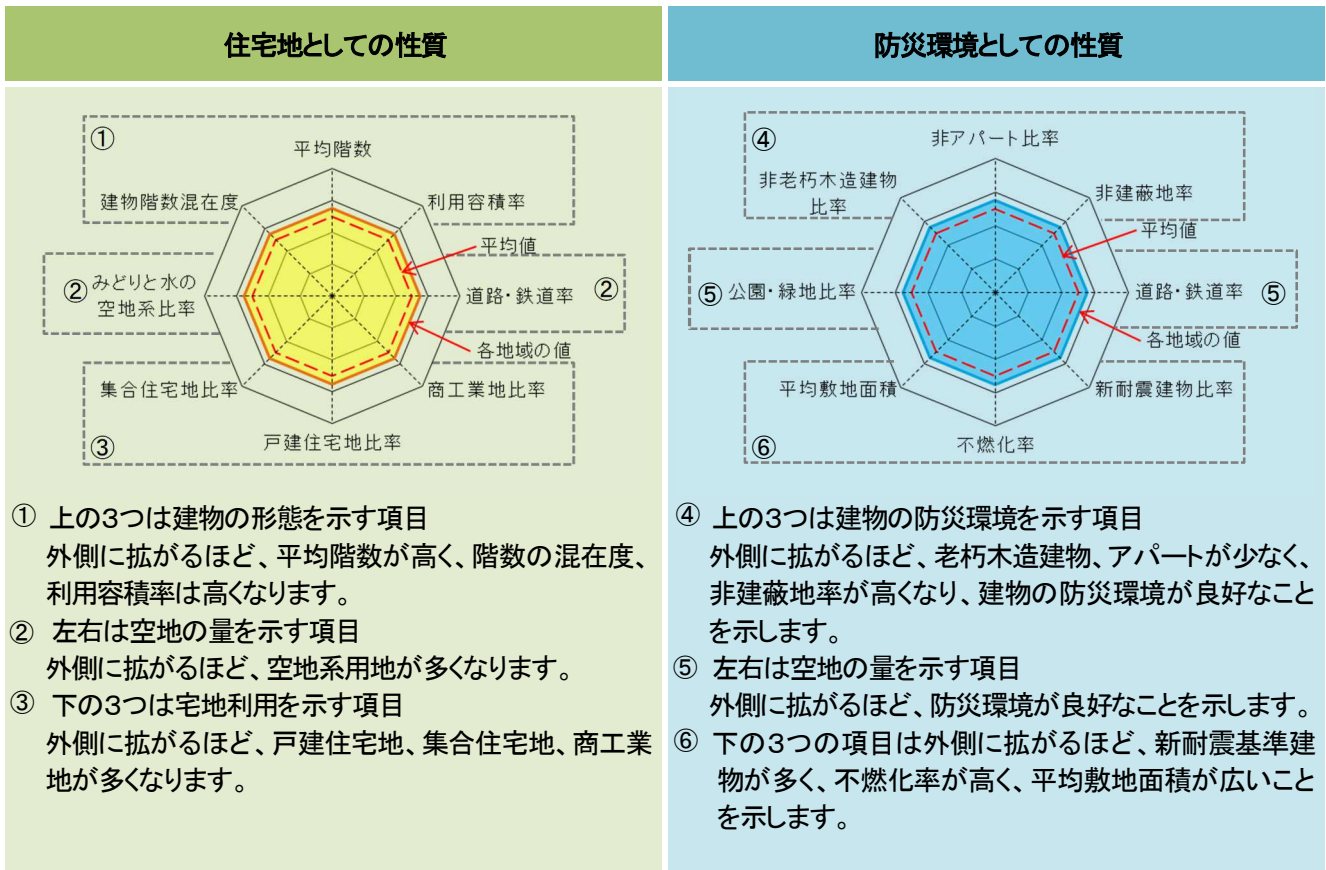
- 第7章では、「杉並区まちづくり基本方針（杉並区都市計画マスタープラン）」による7地域の住宅環境や防災環境についてレーダーチャートを用いて、その特性や特徴を比較しました。
- 本区の特徴である住宅都市としての側面を、地域ごとに「住宅地としての性質」を示す8つの項目で分析するとともに、「防災環境としての性質」を示す8つの項目で特徴を見ていくこととしました。
- 地域ごとに前回調査(平成24年)からの土地・建物等の変化を比較しています。
- また、7地域の個性を伝えるために、第2章から第6章に記載した内容を、地域に合わせて切り取って、コンパクトに掲載しています。



○本章で使用する指標の定義

住宅地としての性質			防災環境としての性質		
①	平均階数	階数の総和÷全棟数	④	非アパート比率	アパート以外の棟数 ÷住宅棟数合計
	利用容積率	延べ床面積の合計 ÷敷地面積の合計		非建蔽 ^{べい} 地率	1-(建築面積の合計 ÷敷地面積の合計)
	建物階数混在度	平均階数の標準偏差 (階数のバラつき具合)		非老朽木造建物比率	新耐震基準以前の木造建物以外 の棟数÷棟数合計
②	道路・鉄道率	(道路、鉄道面積)÷地域面積	⑤	道路・鉄道率	(道路、鉄道面積)÷地域面積
	みどりと水の空地系比率	(公園・運動場等、農地、河川、森林面積)÷地域面積		公園・緑地比率	(公園・運動場等、未利用地、屋外利用地、農地、河川、森林面積)÷地域面積
③	商工業地比率	(商業用地、工業用地面積) ÷地域面積	⑥	新耐震建物比率	新耐震建物(昭和57年以降の建物) 棟数÷棟数合計
	戸建住宅地比率	戸建住宅用地面積 ÷地域面積		不燃化率	耐火造・準耐火造の建築面積 の合計÷建築面積合計
	集合住宅地比率	集合住宅用地面積 ÷地域面積		平均敷地面積	敷地面積の合計÷棟数合計

○レーダーチャートの見方



※上記チャートの赤点線は杉並区の平均値を示しています。

レーダーチャートで見る7地域の比較

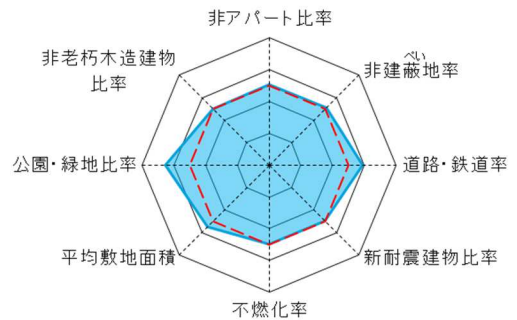
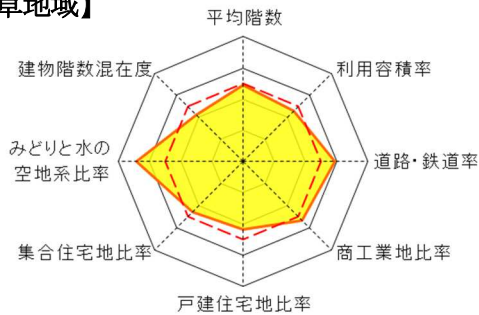
●住環境の状況

- ・住宅地のうち、低層住宅地としてゆとりのある土地利用がなされているのは、1. 井草地域や6. 高井戸地域、7. 方南・和泉地域で、みどりと水の空地系比率が特に高く、平均階数や建物階数混在度も低く、低層住宅街を形成しています。
- ・一方、5. 高円寺地域はみどりと水の空地系比率が特に低く、商工業地比率、集合住宅地比率及び建物階数混在度も高くなっています。

●防災環境の状況

- ・全体的に区平均値の防災環境を上回るのは、1. 井草地域となっています。
- ・5. 高円寺地域は非アパート比率が低く、公園・緑地比率が低いため、防災環境に課題があると言えます。
- ・また、2. 西荻地域や4. 阿佐谷地域でも不燃化率などで区平均値を下回る指標が見られます。

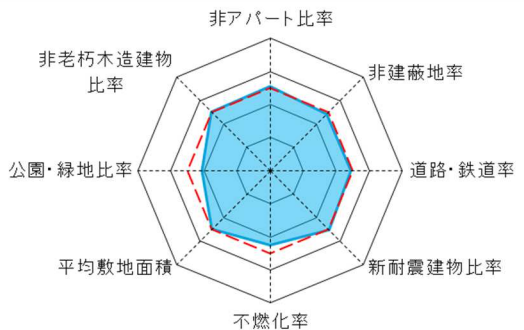
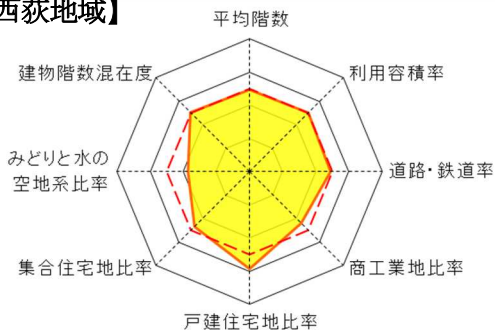
【1. 井草地域】



- ・道路・鉄道率とみどりと水の空地系比率が7地域の中で最も高い
- ・建物階数混在度は7地域の中で最も低い

- ・公園・緑地比率と道路・鉄道率が7地域の中で最も高い

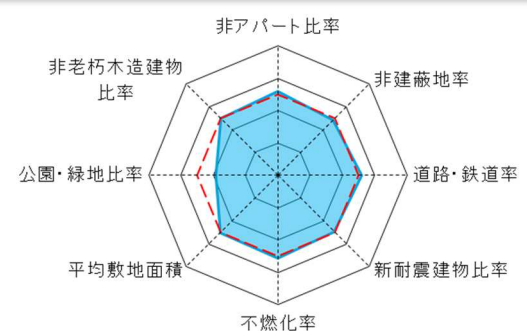
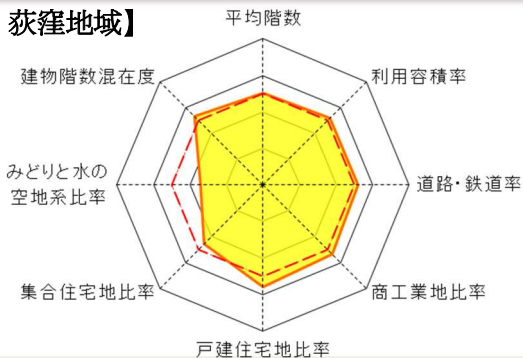
【2. 西荻地域】



- ・戸建住宅地比率は7地域の中で最も高い
- ・商工業地比率とみどりと水の空地系比率が平均より低い

- ・不燃化率及び公園・緑地比率は平均を下回っているが、その他は概ね区平均値

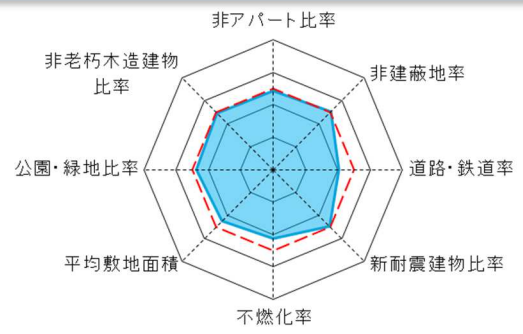
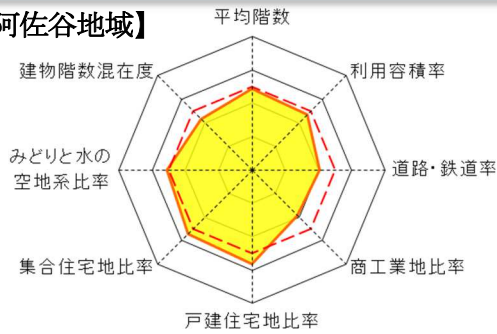
【3. 荻窪地域】



- ・みどりと水の空地系比率は平均よりも大きく下回っており、集合住宅地率も平均より低い
- ・その他は概ね区平均値前後

- ・公園・緑地比率は平均を下回っているが、その他は概ね区平均値

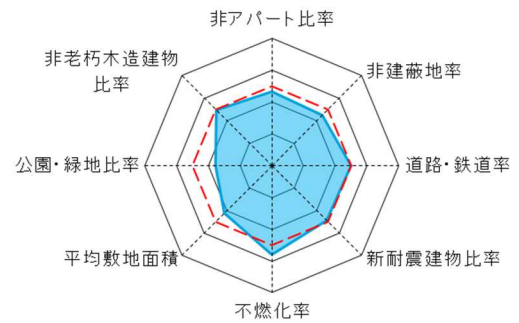
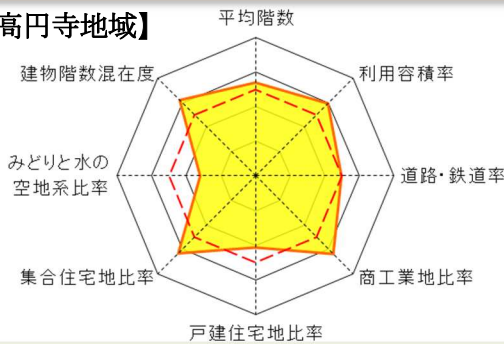
【4. 阿佐谷地域】



- ・道路・鉄道率と商工業地比率が7地域の中で最も低い
- ・戸建住宅地比率と集合住宅地比率は共に平均を上回っている

- ・道路・鉄道率、不燃化率及び平均敷地面積は平均を下回っているが、その他は概ね区平均値

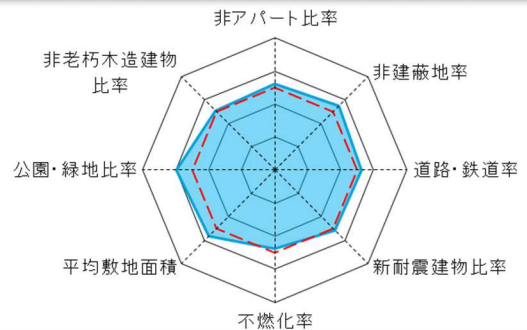
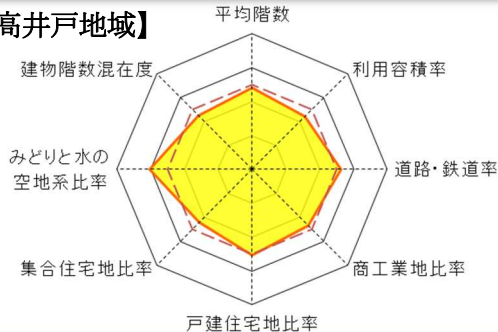
【5. 高円寺地域】



- ・平均階数、利用容積率、商工業地比率、集合住宅地比率及び建物階数混在度が7地域の中で最も高い
- ・戸建住宅地比率とみどりと水の空地系比率は最も低くなっている

- ・不燃化率は7地域の中で最も高い
- ・非アパート比率、非建蔽地率、新耐震建物比率、平均敷地面積及び公園・緑地比率は平均を下回っている

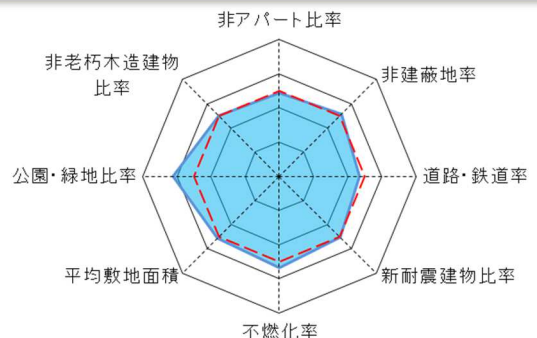
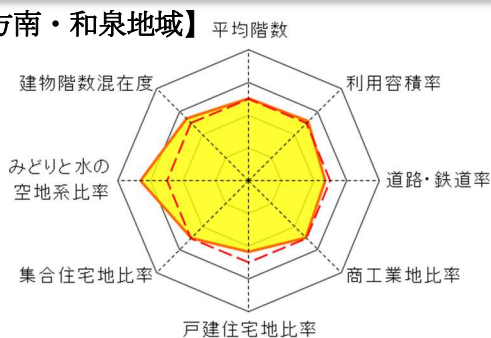
【6. 高井戸地域】



- ・みどりと水の空地系比率が平均を上回っている
- ・平均階数、利用容積率、商工業地比率、集合住宅地比率及び建物階数混在度は平均を下回っている

- ・公園・緑地比率及び平均敷地面積は平均を上回っており、その他は概ね区平均値

【7. 方南・和泉地域】



- ・みどりと水の空地系比率が平均を上回っている
- ・道路・鉄道率や戸建住宅地比率は平均を下回っている

- ・公園・緑地比率は平均を上回っているが、その他は概ね区平均値



1. 井草地域

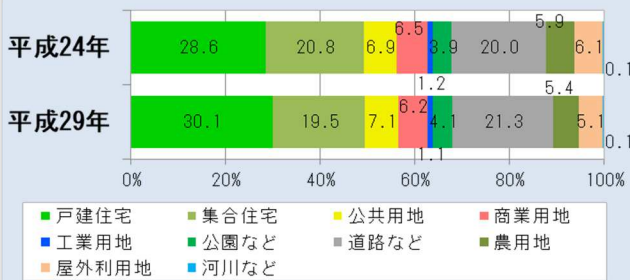
【都市構造の状況】

- ・西武新宿線下井草駅、井荻駅、上井草駅があり、その周囲及びそれに繋がる道路沿いに商店街が形成されています。
- ・地域全域が井荻町土地区画整理事業（資料編P85）完了区域であり、碁盤目状に道路基盤が整備され、細街路（幅員4m未満の道路）の割合が低くなっています。
- ・井草森公園や上井草スポーツセンター等の大規模な公共施設があります。
- ・農用地等が多く、地域の特色となっています。
- ・みどりと水の空地系比率は7地域の中で最も高く、建物階数混在度は7地域の中で最も低くなっています。
- ・過去5年間の目立った動きとして、土地利用の変化では、戸建住宅は増加し、集合住宅は減少しました。平均敷地面積は戸建住宅が3.1㎡減少しました。
- ・住宅系建物の変化では、戸建住宅の延べ床面積は8.5ha[10.6%]増加、建物階数の動きでは、2階建ての建築面積が4.5ha[7.5%]で最も大きく増加しました。利用建蔽率は1.0ポイント、利用容積率は2.8ポイントそれぞれ増加しました。
- ・拠点別の状況を見ると、西武新宿線3駅は身近な生活拠点に位置付けられており、区域内の乗降客数は7地域の中で比較的少ない傾向にあります。

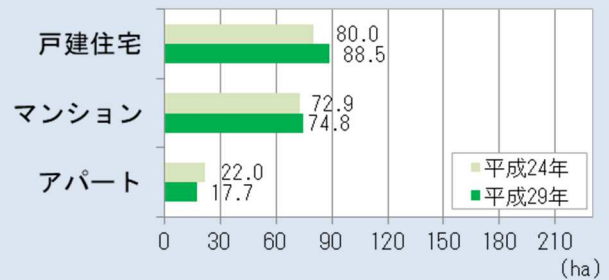
※[]は平成24年調査からの増減比を示しています。また、平均敷地面積については、500㎡以上の敷地を含んでいます（他地域も同様）。

【土地・建物等の変化】

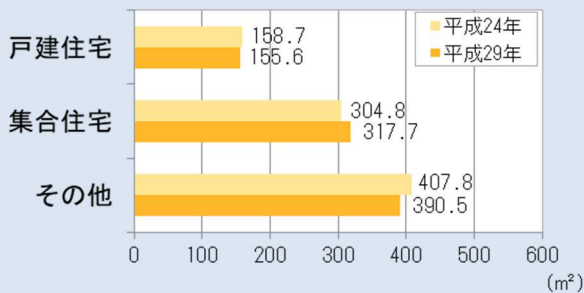
土地利用の変化



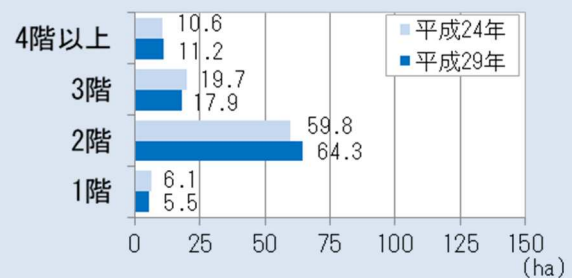
住宅の動向（延べ床面積の変化）



平均敷地面積の動き



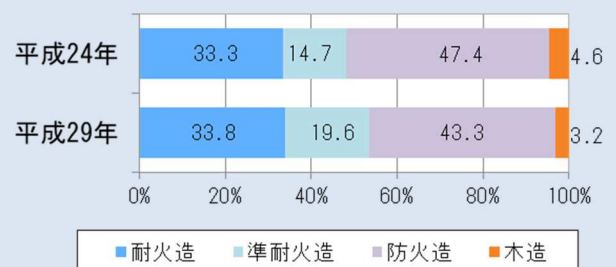
建物階数の動き



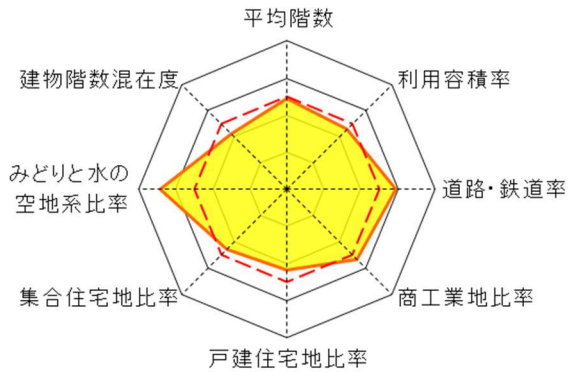
利用建蔽率・利用容積率の変化



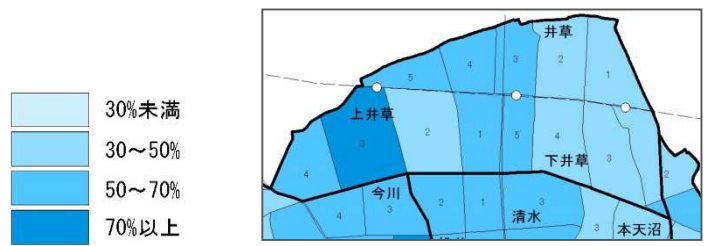
構造別建築面積の変化



【住環境の状況】



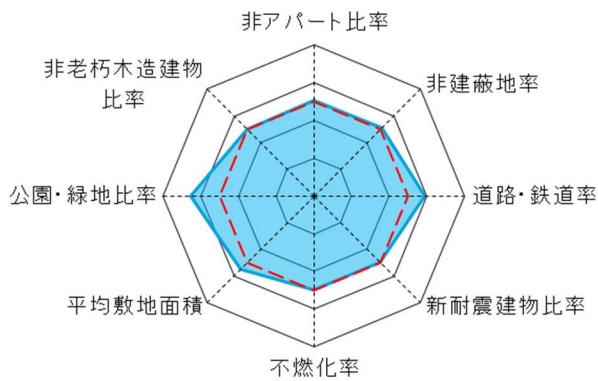
【不燃化率】（町丁目別）



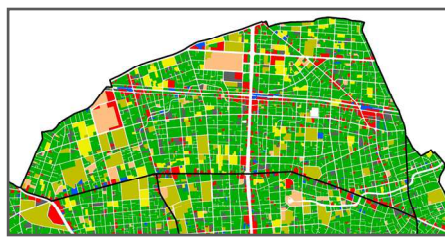
【不燃領域率】（町丁目別）



【防災環境の状況】



【土地利用現況図】



- 公共用地
- 商業用地
- 住宅用地
- 工業用地
- 農業用地
- 公園等
- 道路等、河川等
- 農用地
- 森林、原野等
- 屋外利用地等

【拠点別の状況】



（建物高さ）

- 10m未満
- 10m以上12m未満
- 12m以上15m未満
- 15m以上20m未満
- 20m以上

（拠点の区分）

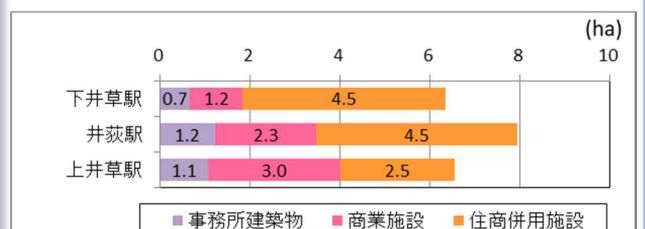
- 都市活性化拠点
- 地域生活拠点
- 身近な生活拠点

（乗降客数）平成28年（人/日）

路線名	駅名	乗降客数
西武線	下井草駅	24,543
西武線	井荻駅	20,105
西武線	上井草駅	20,833

出典：国土数値情報 駅別乗降客数データ

（拠点別：商業系延べ床面積の状況）※



【道路幅員別現況図】



- 4m未満
- 4m以上6m未満
- 6m以上9m未満
- 9m以上12m未満
- 12m以上



※区境付近の駅に関しては、杉並区内のみの分析です。



2. 西荻地域

【都市構造の状況】

- ・地域の中央にはJR中央線西荻窪駅があり、その周辺の人口密度は高くなっています。
- ・西荻窪駅周辺及びそれに繋がる道路沿いに商店街が形成されています。それに隣接して集合住宅、後背地に低層住宅地が広がっています。
- ・線路以北及び南側の一部が井荻町土地区画整理事業（資料編 P85）完了区域で、道路基盤が整備されています。この区域は細街路の割合が低くなっています。
- ・地域北西部に面積の大きな善福寺公園があり、そこから南東方向に善福寺川が流れ、みどり水の豊かな空間を形成しています。また、地域北部には桃井原っぱ公園があります。一方、その他の公園が少ないことから、右のレーダーチャートでは、公園・緑地比率が低くなっています。
- ・過去5年間の目立った動きとして、土地利用の変化では、戸建住宅、集合住宅ともに増加し、屋外利用地が1.3ポイント減少しています。
- ・平均敷地面積は戸建住宅が2.7㎡減少しました。住宅の動向では、戸建住宅の延べ床面積は12.2ha[6.9%]増加し、建物階数の動きでは、2階建てが増加しました。利用建蔽率は0.6ポイント、利用容積率は2.1ポイントそれぞれ増加しました。
- ・拠点別の状況を見ると、西荻窪駅は地域生活拠点に位置付けられており、住商併用施設の延べ床面積はJR中央線高円寺駅に次いで多くなっています。

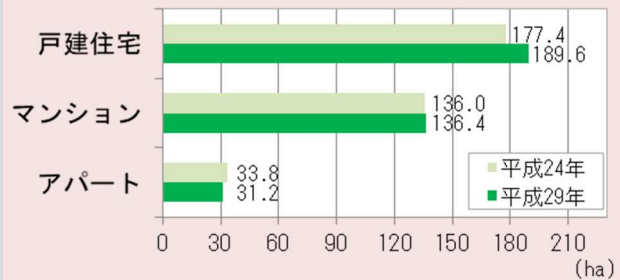
※[]は平成24年調査からの増減比を示しています。

【土地・建物等の変化】

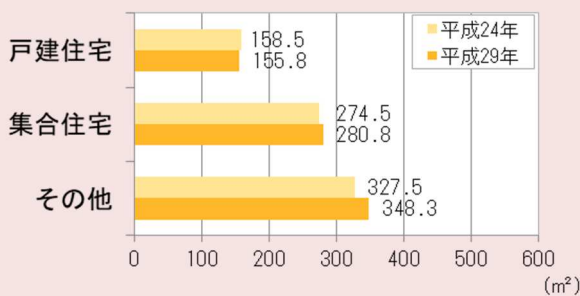
土地利用の変化



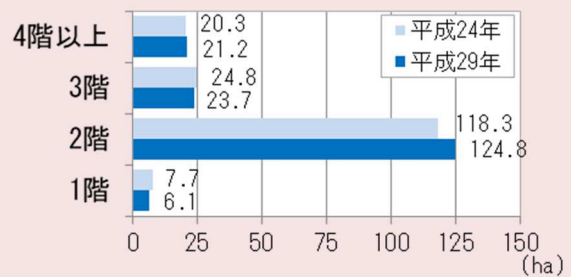
住宅の動向（延べ床面積の変化）



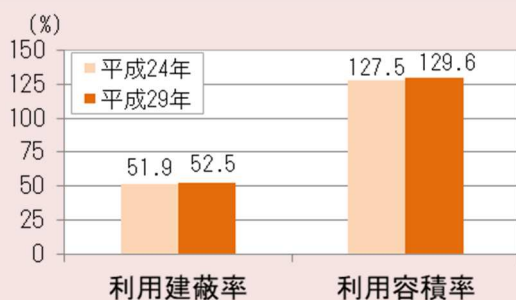
平均敷地面積の動き



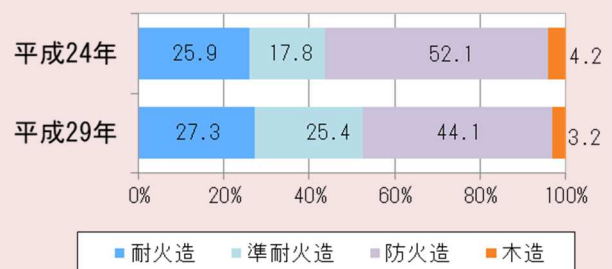
建物階数の動き



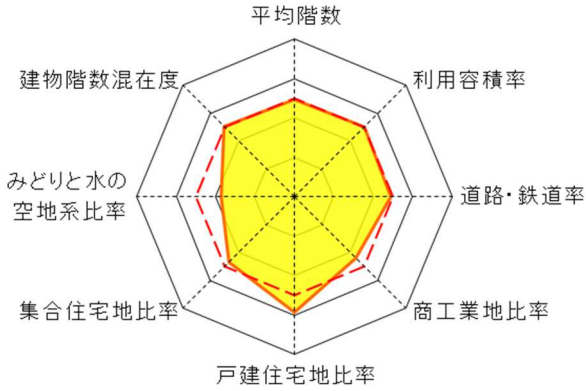
利用建蔽率・利用容積率の変化



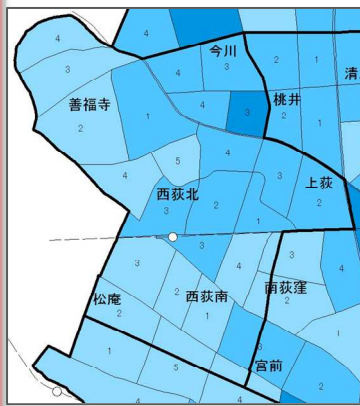
構造別建築面積の変化



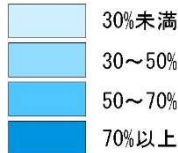
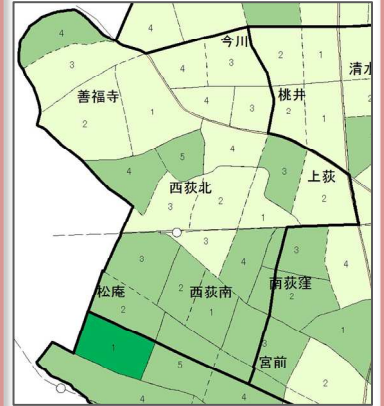
【住環境の状況】



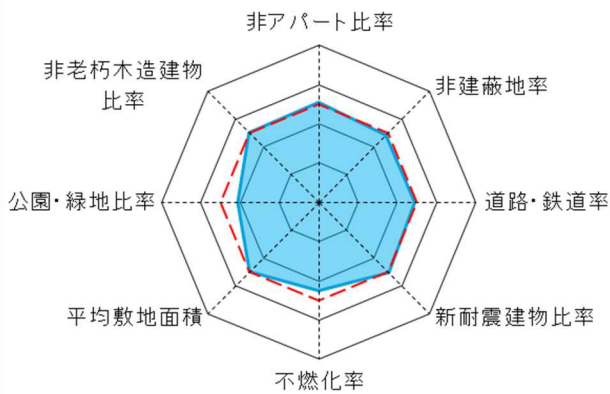
【不燃化率】（町丁目別）



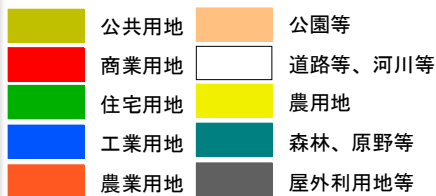
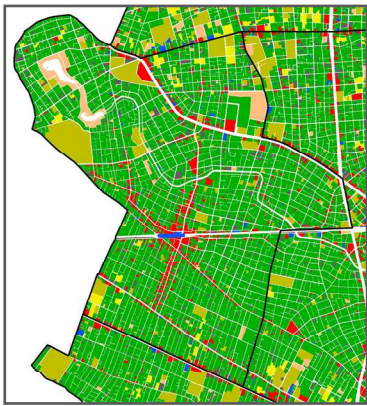
【不燃領域率】（町丁目別）



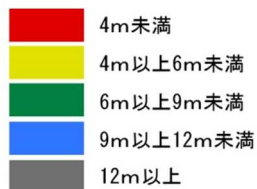
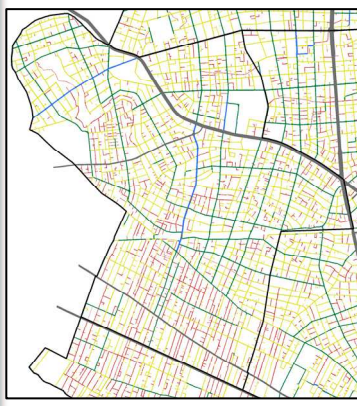
【防災環境の状況】



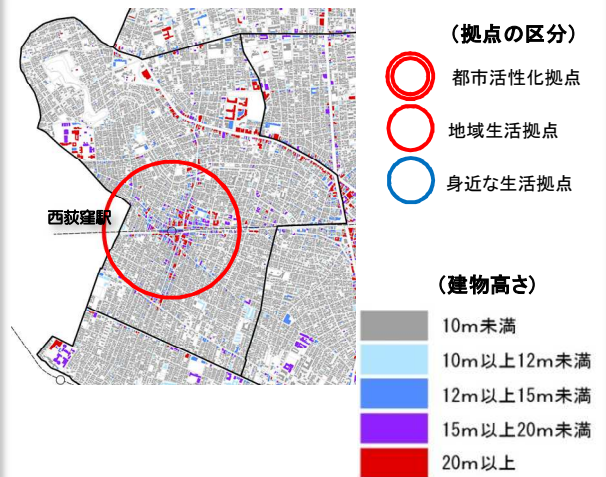
【土地利用現況図】



【道路幅員別現況図】



【拠点別の状況】

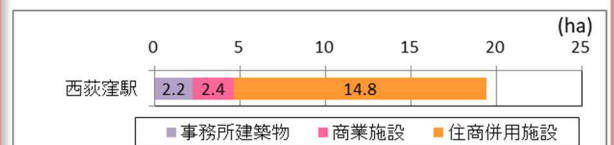


（乗降客数）
平成28年（人/日）

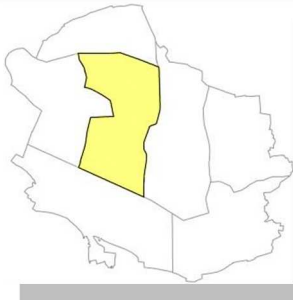
路線名	駅名	乗降客数
中央線	西荻窪駅	87,838

出典：国土数値情報 駅別乗降客数データ

（拠点別：商業系延べ床面積の状況）※



※区境付近の駅に関しては、杉並区内のみの分析です。



3. 荻窪地域

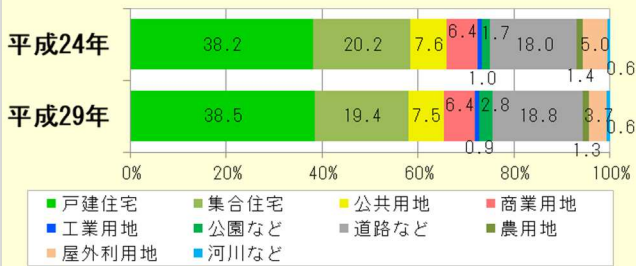
【都市構造の状況】

- ・地域の中央にはJR中央線及び東京メトロ丸ノ内線の荻窪駅があり、その周辺の人口密度は高くなっています。
- ・荻窪駅の乗降客数は区内最大であり、駅周辺の商業系延べ床面積も区内最大となっています。
- ・それに隣接して集合住宅地、後背地に中低層の戸建住宅地があります。
- ・JR中央線南側に善福寺川が流れ、その近くには善福寺川緑地、(仮称)荻外荘公園や大田黒公園などがあります。その周辺には、敷地面積の大きな住宅地があり、良好な環境を形成しています。
- ・上荻、南荻窪は、井荻町土地区画整理事業完了区域であり、道路基盤が整備されています。
- ・荻窪駅北側の区域では、細街路率が高くなっています。
- ・過去5年間の目立った動きとして、土地利用の変化では、戸建住宅は増加、集合住宅は減少し、屋外利用地が減少しました。平均敷地面積は戸建住宅が2.9㎡減少しました。
- ・住宅の動向では、戸建住宅の延べ床面積は11.4ha[5.5%]増加、建物階数の動きでは、2階建てが7.2ha[5.4%]増加しました。利用建蔽率は0.5ポイント、利用容積率は1.2ポイントそれぞれ増加しました。
- ・拠点別の状況を見ると、荻窪駅は都市活性化拠点に位置付けられており、商業系延べ床面積は、区内の駅で最も多くなっています。

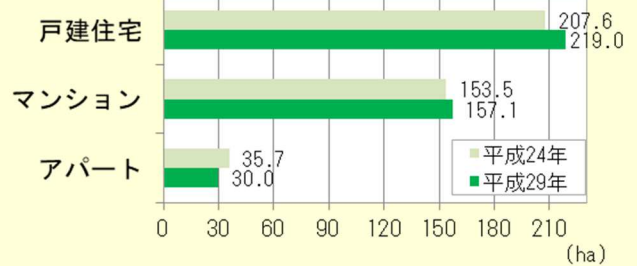
※[]は平成24年調査からの増減比を示しています。

【土地・建物等の変化】

土地利用の変化



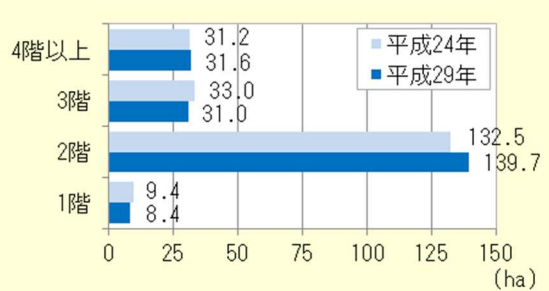
住宅の動向（延べ床面積の変化）



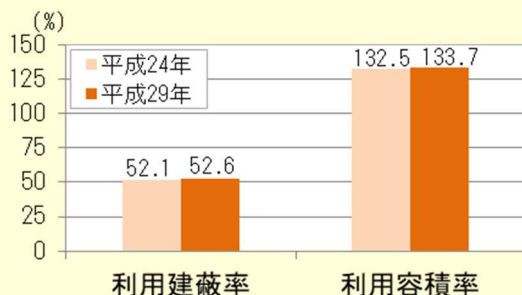
平均敷地面積の動き



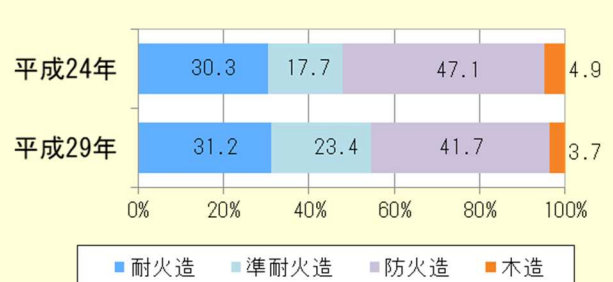
建物階数の動き



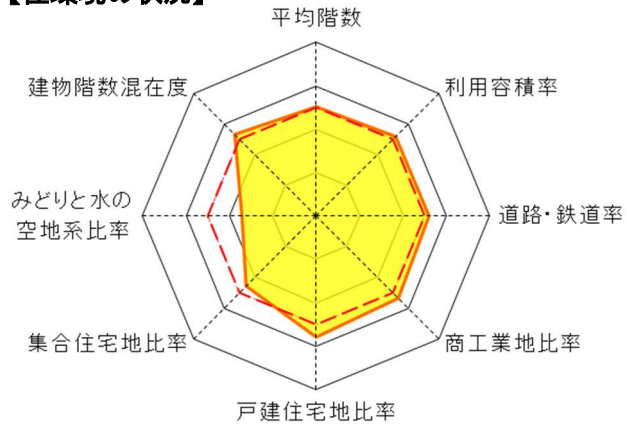
利用建蔽率・利用容積率の変化



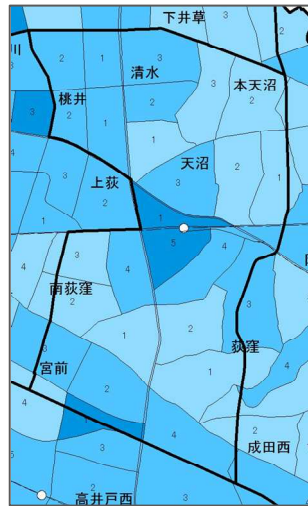
構造別建築面積の変化



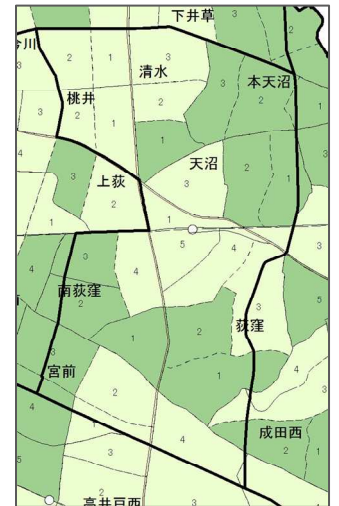
【住環境の状況】



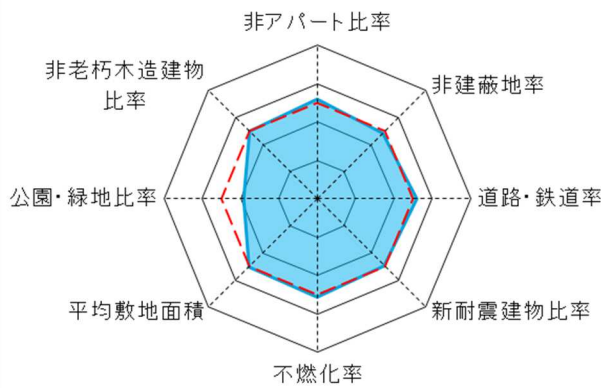
【不燃化率】（町丁目別）



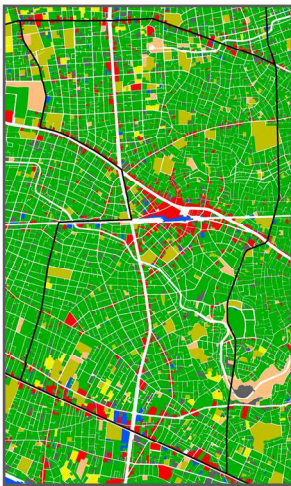
【不燃領域率】（町丁目別）



【防災環境の状況】



【土地利用現況図】



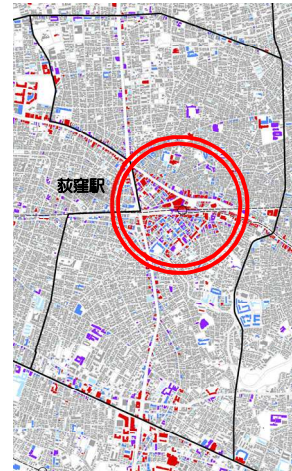
- 公共用地
- 商業用地
- 住宅用地
- 工業用地
- 農業用地
- 公園等
- 道路等、河川等
- 農用地
- 森林、原野等
- 屋外利用地等

【道路幅員別現況図】



- 4m未満
- 4m以上6m未満
- 6m以上9m未満
- 9m以上12m未満
- 12m以上

【拠点別の状況】



- （拠点の区分）
- 都市活性化拠点
 - 地域生活拠点
 - 身近な生活拠点

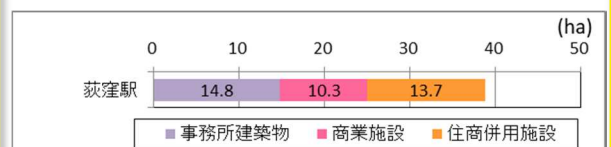
- （建物高さ）
- 10m未満
 - 10m以上12m未満
 - 12m以上15m未満
 - 15m以上20m未満
 - 20m以上

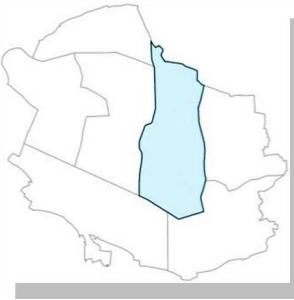
（乗降客数）
平成28年（人/日）

路線名	駅名	乗降客数
中央線	荻窪駅	174,946
丸ノ内線	荻窪駅	85,471

出典：国土数値情報 駅別乗降客数データ

（拠点別：商業系延べ床面積の状況）





4. 阿佐谷地域

【都市構造の状況】

- ・地域の中央にはJR中央線阿佐ヶ谷駅があり、その周辺の人口密度は高くなっています。
- ・阿佐ヶ谷駅の南側の青梅街道地下に東京メトロ丸ノ内線南阿佐ヶ谷駅があります。これらの駅周辺及びそれに繋がる道路沿いに商店街が形成されています。それに隣接して集合住宅地、後背地に低層住宅地が広がっています。
- ・地域南側に、和田堀公園及び善福寺川緑地があり、みどり豊かな空間を形成しています。
- ・阿佐ヶ谷駅南北の住宅地は、細街路率が高くなっています。
- ・過去5年間の目立った動きとして、土地利用の変化では、戸建住宅、集合住宅ともに増加しました。平均敷地面積は戸建住宅が1.5㎡減少し、集合住宅が8.6㎡増加しました。
- ・住宅の動向では、戸建住宅の延べ床面積は14.8ha[7.4%]増加、建物階数の動きでは、2階建てが5.7ha[4.0%]、4階建て以上は1.4ha[7.2%]それぞれ増加しました。利用建蔽率は0.3ポイント、利用容積率は、3.8ポイントそれぞれ増加しました。
- ・拠点別の状況を見ると、阿佐ヶ谷駅は地域生活拠点、南阿佐ヶ谷駅は身近な生活拠点に位置付けられています。南阿佐ヶ谷駅は、身近な生活拠点の中で商業系延べ床面積が最も多くなっています。

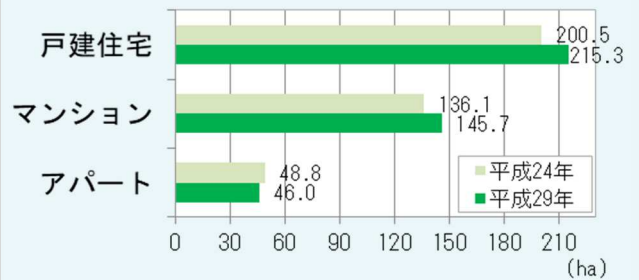
※[]は平成24年調査からの増減比を示しています。

【土地・建物等の変化】

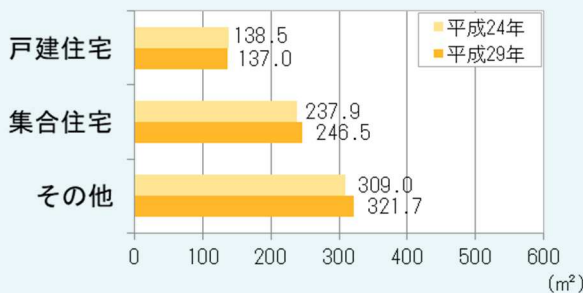
土地利用の変化



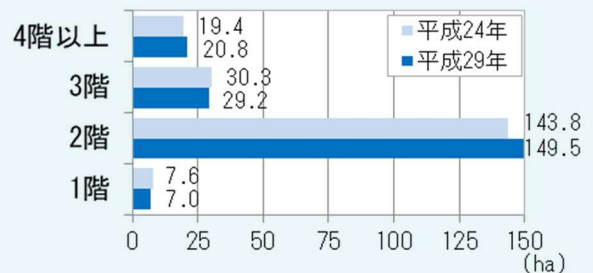
住宅の動向（延べ床面積の変化）



平均敷地面積の動き



建物階数の動き



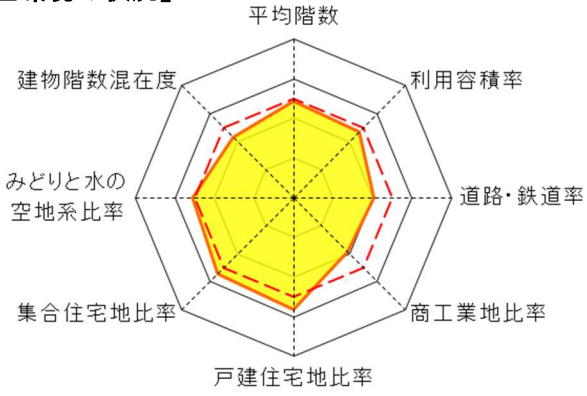
利用建蔽率・利用容積率の変化



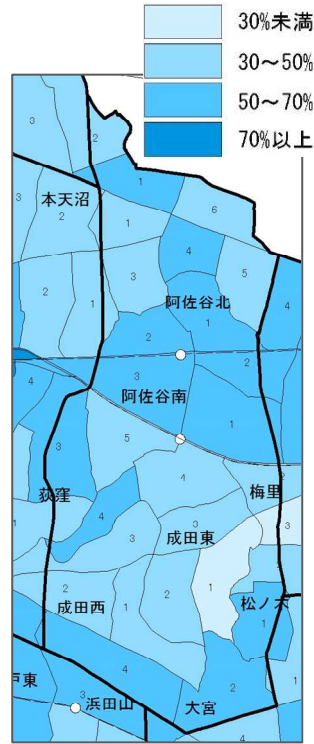
構造別建築面積の変化



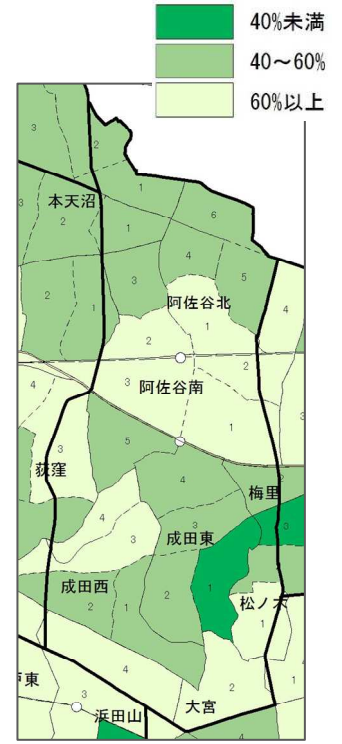
【住環境の状況】



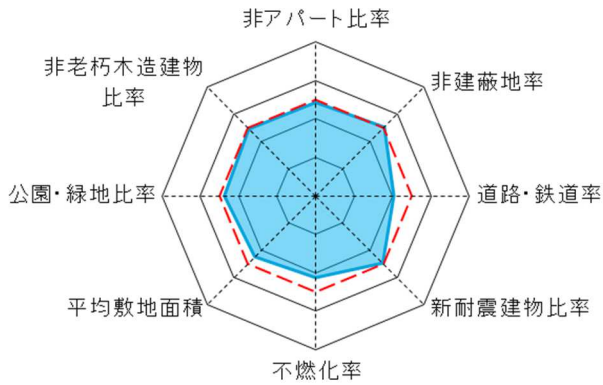
【不燃化率】（町丁目別）



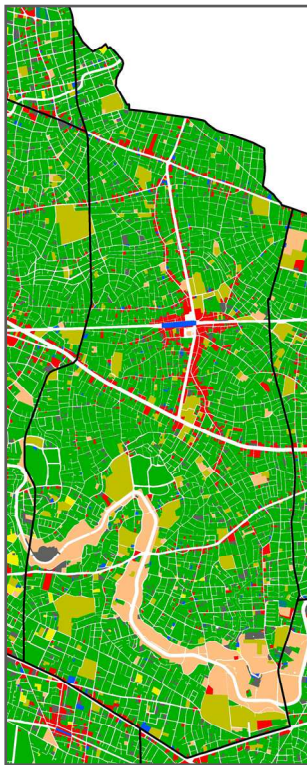
【不燃領域率】（町丁目別）



【防災環境の状況】

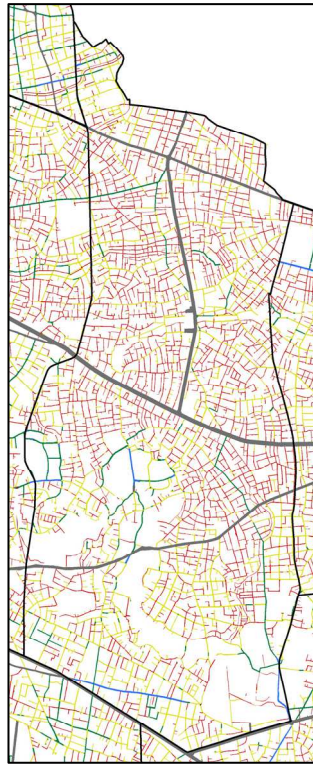


【土地利用現況図】



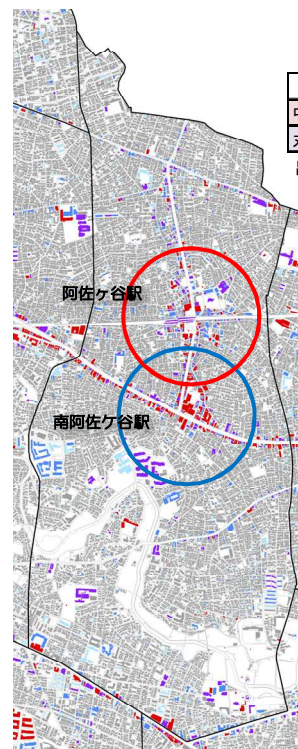
- 公共用地
- 商業用地
- 住宅用地
- 工業用地
- 農業用地
- 公園等
- 道路等、河川等
- 農用地
- 森林、原野等
- 屋外利用地等

【道路幅員別現況図】



- 4m未満
- 4m以上6m未満
- 6m以上9m未満
- 9m以上12m未満
- 12m以上

【拠点別の状況】



（乗降客数）
平成28年（人/日）

路線名	駅名	乗降客数
中央線	阿佐ヶ谷駅	89,230
丸ノ内線	南阿佐ヶ谷駅	26,025

出典：国土数値情報 駅別乗降客数データ

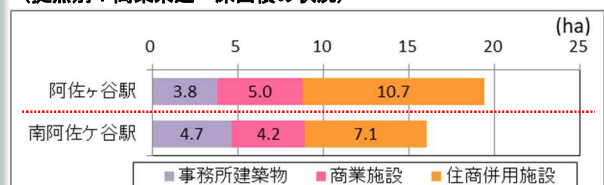
（拠点の区分）

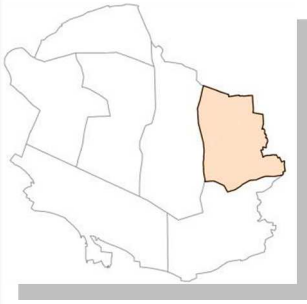
- 都市活性化拠点
- 地域生活拠点
- 身近な生活拠点

（建物高さ）

- 10m未満
- 10m以上12m未満
- 12m以上15m未満
- 15m以上20m未満
- 20m以上

（拠点別：商業系延べ床面積の状況）





5. 高円寺地域

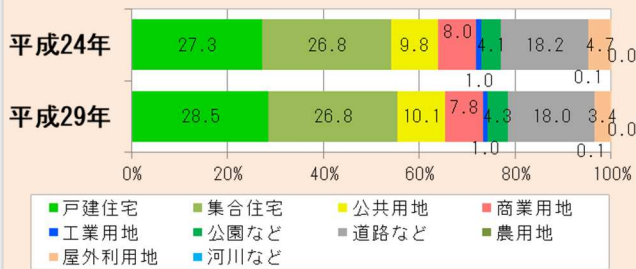
【都市構造の状況】

- ・地域のほぼ全域で人口密度が杉並区平均を上回っています。
- ・地域の中央にはJR中央線高円寺駅があり、その南側の青梅街道地下に東京メトロ丸ノ内線東高円寺駅、新高円寺駅があります。
- ・高円寺駅周辺の商業系延べ床面積は区で2番目の大きさとなっています。また、駅南側から青梅街道まで商店街が繋がっており、それに隣接して集合住宅地、後背地に中低層住宅地が広がっています。
- ・地域内には、蚕糸の森公園と寺社地が多く集積したエリアがあり、良好な環境が形成されています。
- ・過去5年間の目立った動きとして、土地利用の変化では、屋外利用地の減少が見られ、戸建住宅が微増でした。平均敷地面積は集合住宅が4.0㎡増加しました。
- ・住宅の動向では、戸建住宅の延べ床面積は10.0ha[8.2%]増加、建物階数の動きでは、2階建ては3.9ha[4.3%]増加、1階建ては0.8ha減少しました。利用建蔽率は0.6ポイント、利用容積率は4.4ポイントそれぞれ増加しました。
- ・拠点別の状況を見ると、高円寺駅は地域生活拠点、新高円寺駅及び東高円寺駅は身近な生活拠点に位置付けられています。高円寺駅は、住商併用施設の延べ床面積が区内の駅で最も多くなっています。

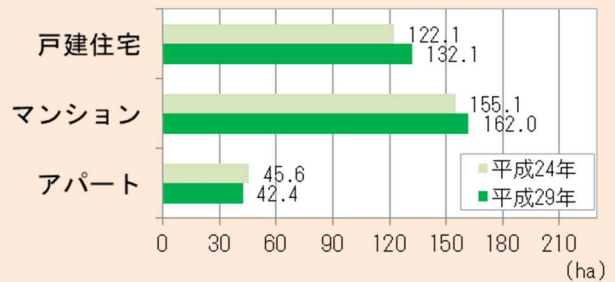
※[]は平成24年調査からの増減比を示しています。

【土地・建物等の変化】

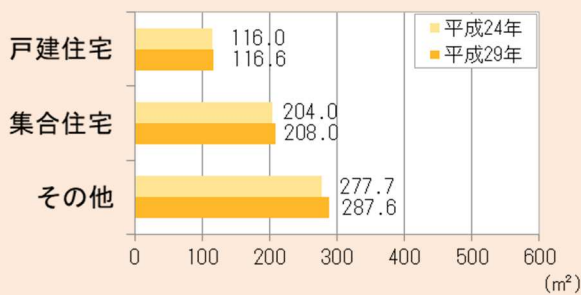
土地利用の変化



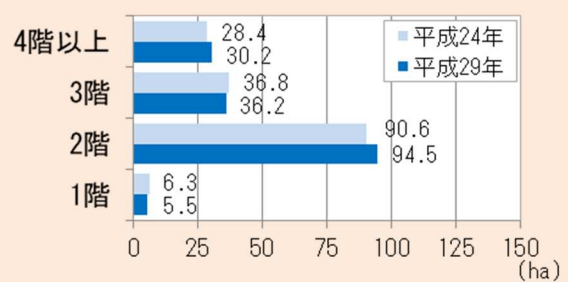
住宅の動向（延べ床面積の変化）



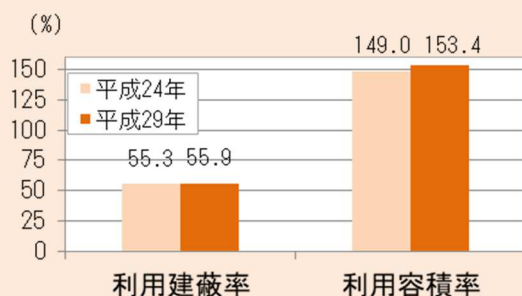
平均敷地面積の動き



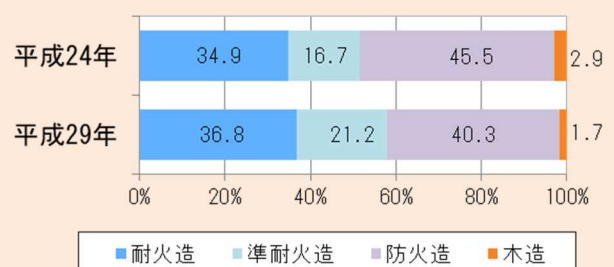
建物階数の動き



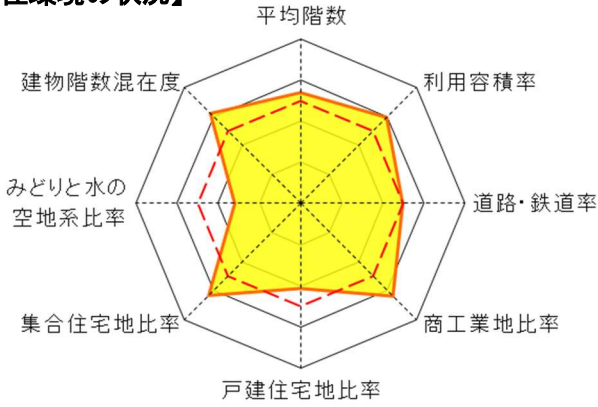
利用建蔽率・利用容積率の変化



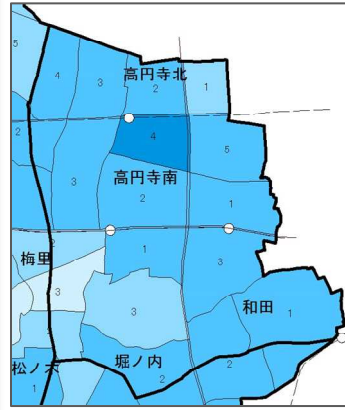
構造別建築面積の変化



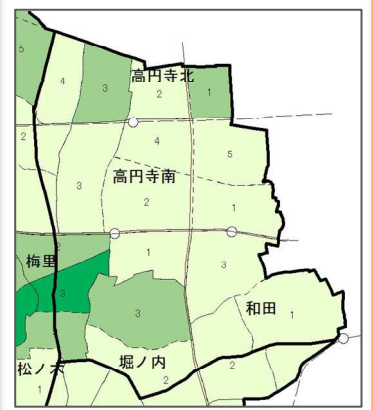
【住環境の状況】



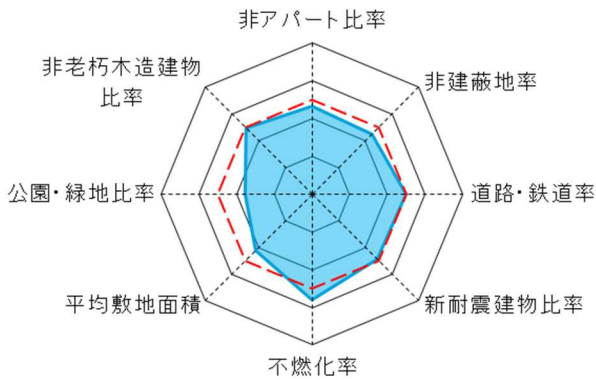
【不燃化率】（町丁目別）



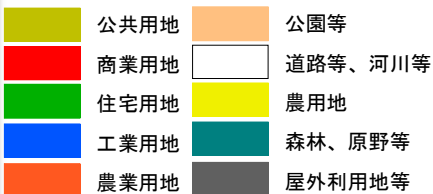
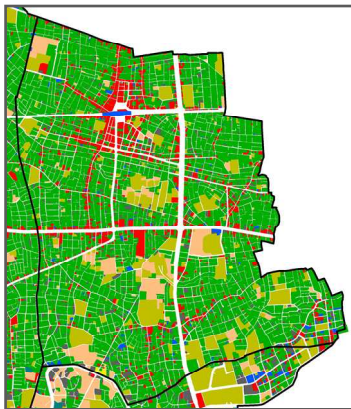
【不燃領域率】（町丁目別）



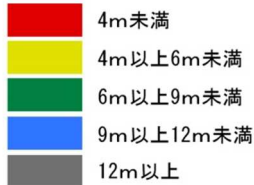
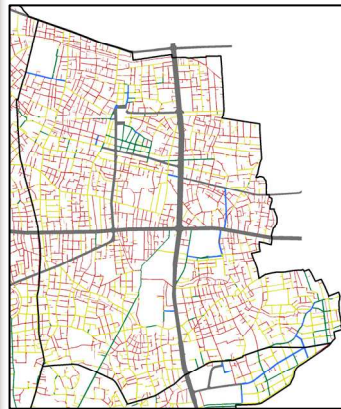
【防災環境の状況】



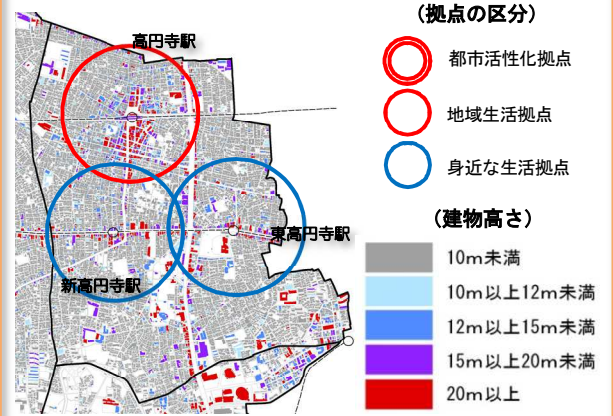
【土地利用現況図】



【道路幅員別現況図】



【拠点別の状況】

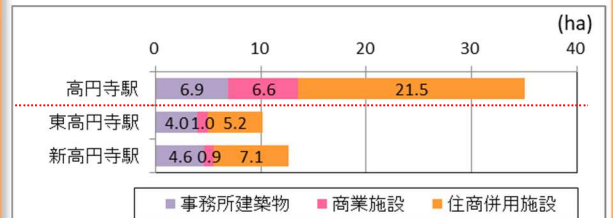


（乗降客数）
平成28年（人/日）

路線名	駅名	乗降客数
中央線	高円寺駅	99,814
丸ノ内線	新高円寺駅	36,767
丸ノ内線	東高円寺駅	35,377

出典：国土数値情報 駅別乗降客数データ

（拠点別：商業系延べ床面積の状況）※



※区境付近の駅に関しては、杉並区内のみの分析です。





6. 高井戸地域

【都市構造の状況】

- ・京王井の頭線及び京王線駅周辺に商店街が形成されています。
- ・神田川沿いに杉並南部土地区画整理事業を施行すべき区域（資料編 P85）が決定されており、指定建蔽率・容積率が抑えられています。
- ・京王線、京王井の頭線沿線で、細街路率が部分的に高くなっています。
- ・企業グラウンドやその跡地が公園に整備され、学校施設が集積し、地域の特色となっています。

- ・過去5年間の目立った動きとして、土地利用の変化では、戸建住宅が増加し、集合住宅は減少でした。
- ・平均敷地面積は戸建住宅が2.3㎡減少しましたが、集合住宅は11.5㎡増加しました。
- ・住宅の動向では、戸建住宅の延べ床面積は16.1ha[8.5%]増加し、建物階数の動きでは、2階建てが6.4ha[4.9%]増加しました。利用建蔽率は0.1ポイント、利用容積率は2.0ポイントそれぞれ増加しました。
- ・拠点別の状況を見ると、地域内及び近隣の駅は、全て身近な生活拠点に位置付けられており、地域内の乗降客数は京王井の頭線高井戸駅が最も多くなっています。

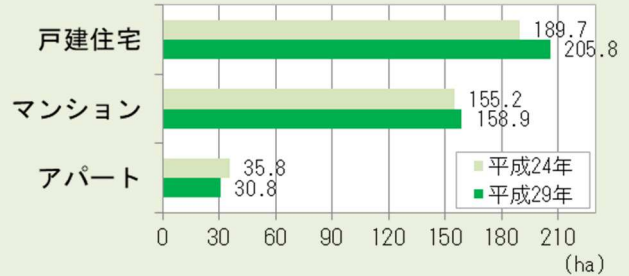
※[]は平成24年調査からの増減比を示しています。

【土地・建物等の変化】

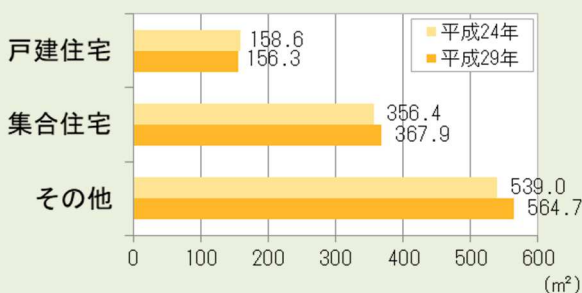
土地利用の変化



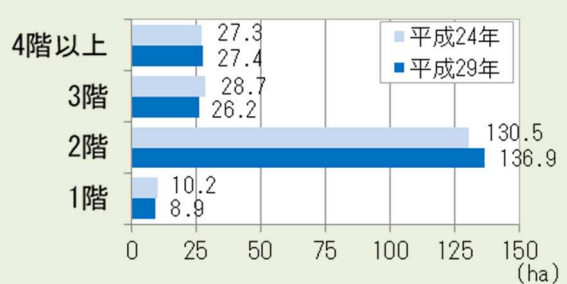
住宅の動向（延べ床面積の変化）



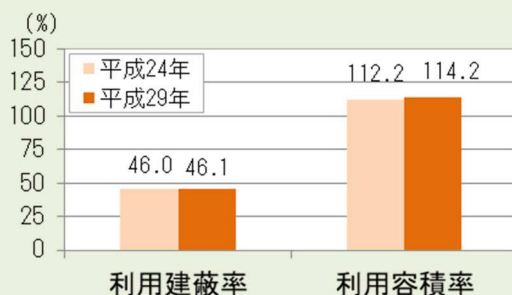
平均敷地面積の動き



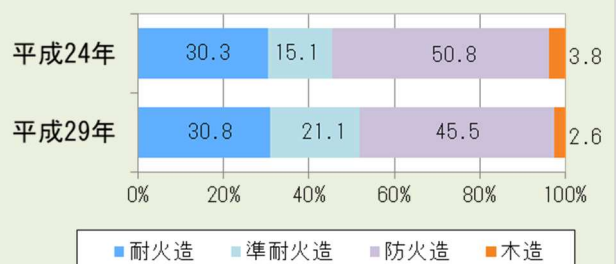
建物階数の動き



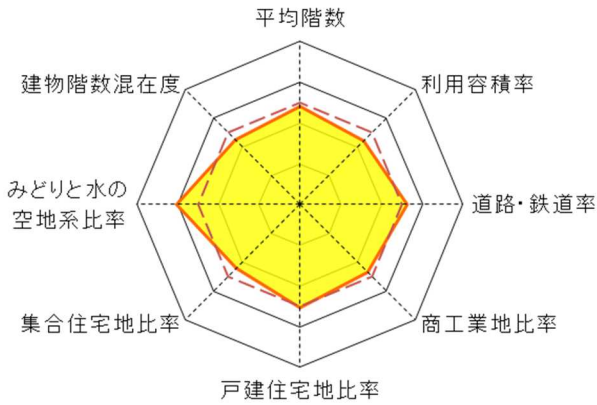
利用建蔽率・利用容積率の変化



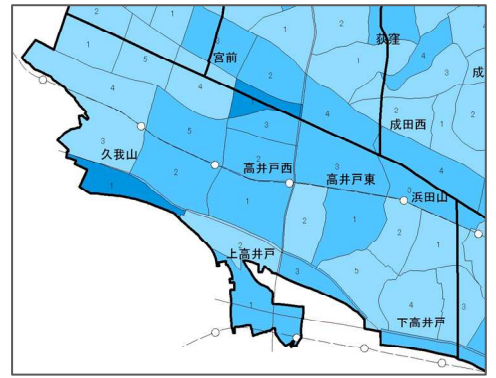
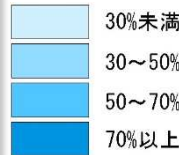
構造別建築面積の変化



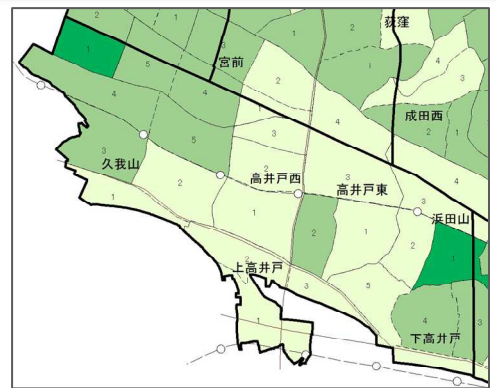
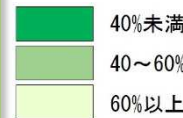
【住環境の状況】



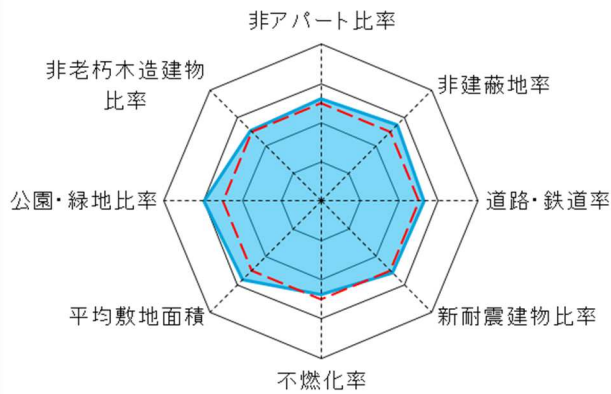
【不燃化率】
(町丁目別)



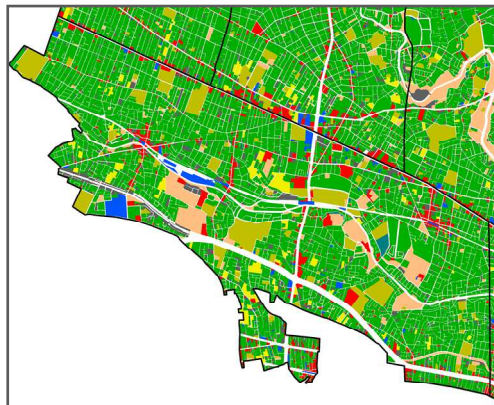
【不燃領域率】
(町丁目別)



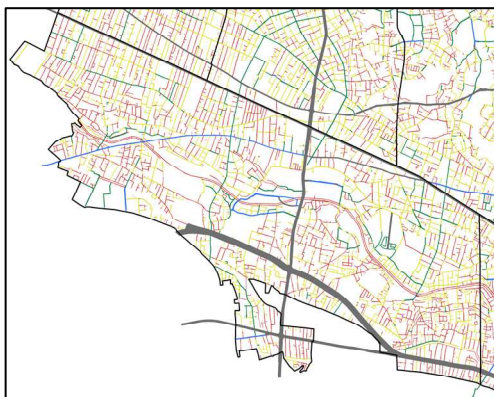
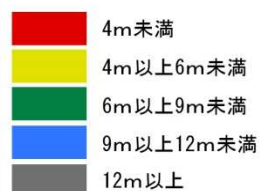
【防災環境の状況】



【土地利用現況図】

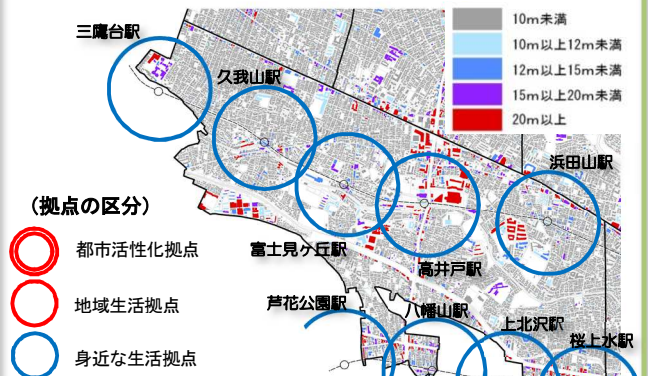


【道路幅員別現況図】



【拠点別の状況】

(建物高さ)

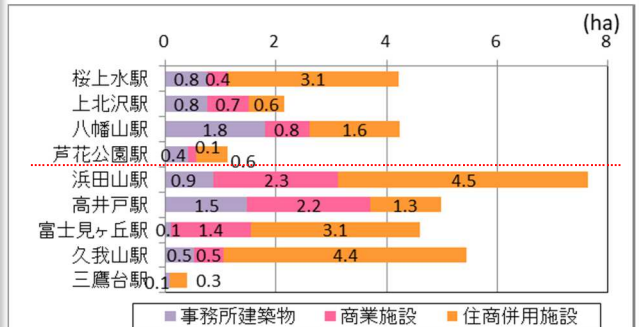


(乗降客数) 平成28年(人/日)

路線名	駅名	乗降客数	路線名	駅名	乗降客数
京王線	桜上水駅	38,953	井の頭線	浜田山駅	30,172
京王線	上北沢駅	15,165	井の頭線	高井戸駅	44,299
京王線	八幡山駅	42,570	井の頭線	富士見ヶ丘駅	13,845
京王線	芦花公園駅	14,429	井の頭線	久我山駅	39,697
			井の頭線	三鷹台駅	22,908

出典：国土数値情報 駅別乗降客数データ

(拠点別：商業系延べ床面積の状況) ※



※区境付近の駅に関しては、杉並区内のみの分析です。



7. 方南・和泉地域

【都市構造の状況】

- ・東京メトロ丸ノ内線、京王井の頭線、京王線駅周辺及びそれに繋がる道路等に商店街が形成されています。
- ・神田川、善福寺川と大きな面積を有する和田堀公園・下高井戸おおぞら公園があり、みどりと水の豊かな空間を形成しています。
- ・神田川及び善福寺川沿いに杉並南部土地区画整理事業を施行すべき区域（資料編P85）があり、指定建蔽率・容積率が抑えられています。
- ・主に京王線駅周辺に、細街路率が高い区域が見られます。
- ・私立大学や高校の学校施設、寺院が集積しているエリアがあります。
- ・過去5年間の目立った動きとして、土地利用の変化では、戸建住宅、集合住宅はともに増加し、公園等や農地が横ばい、屋外利用地が減少しています。
- ・平均敷地面積は戸建住宅が1.3㎡減少し、集合住宅は17.2㎡増加しました。住宅の動向では、戸建住宅が15.1ha[11.4%]、マンションが11.8ha[9.0%]増加し、建物階数では、2階建て及び4階建て以上が増加しました。利用建蔽率は0.3ポイント、利用容積率は6.6ポイントそれぞれ増加しました。
- ・拠点別の状況を見ると、地域内及び近隣の駅は、全て身近な生活拠点に位置付けられており、区内駅の乗降客数は東京メトロ丸ノ内線方南町駅が最も多くなっています。

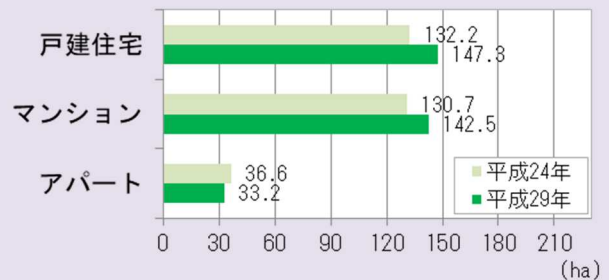
※[]は平成24年調査からの増減比を示しています。

【土地・建物等の変化】

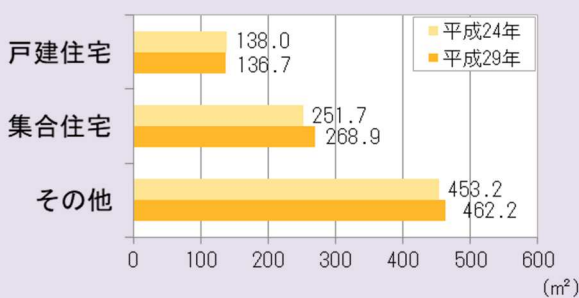
土地利用の変化



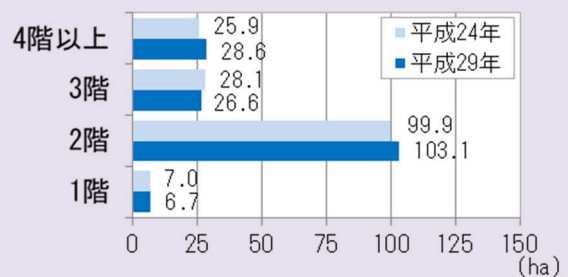
住宅の動向（延べ床面積の変化）



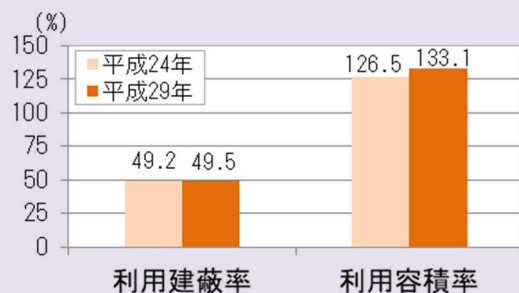
平均敷地面積の動き



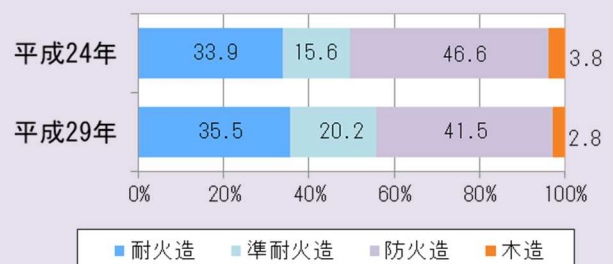
建物階数の動き



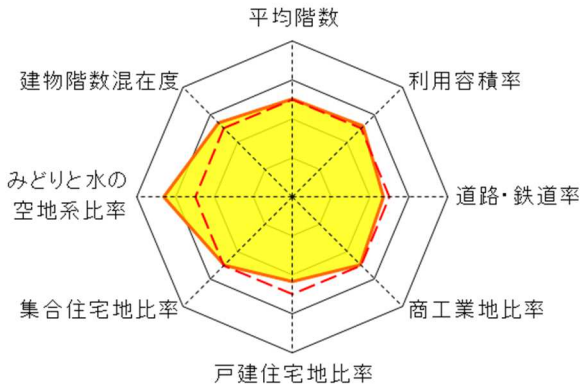
利用建蔽率・利用容積率の変化



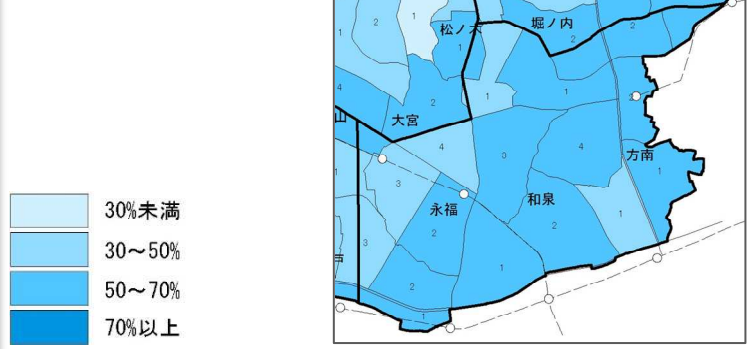
構造別建築面積の変化



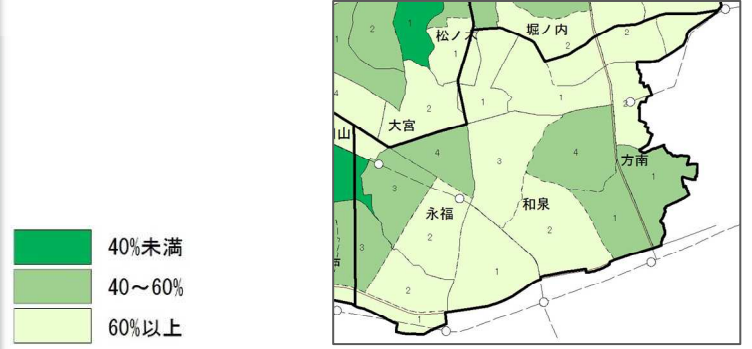
【住環境の状況】



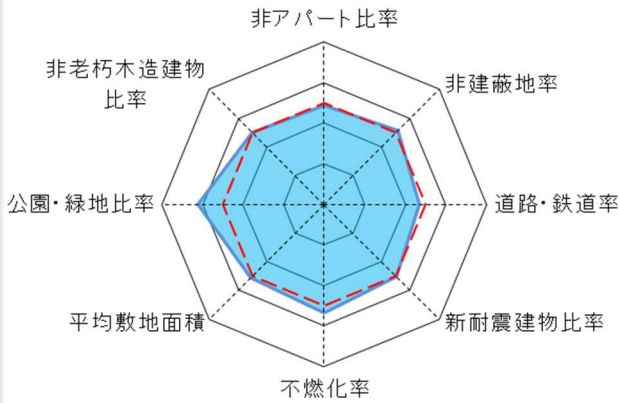
【不燃化率】（町丁目別）



【不燃領域率】（町丁目別）

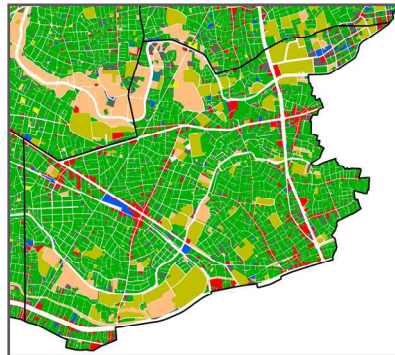


【防災環境の状況】

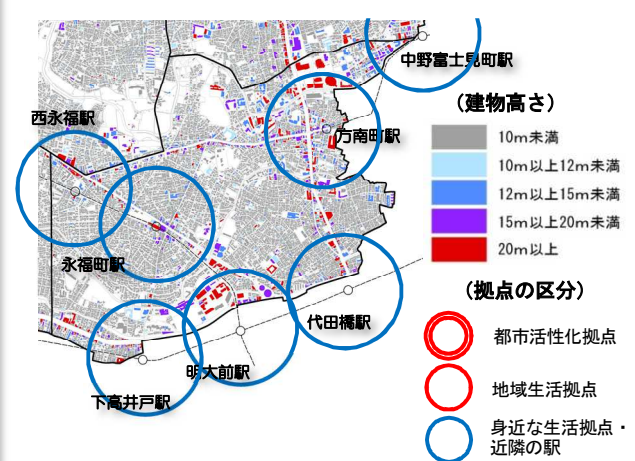


【土地利用現況図】

- 公共用地
- 商業用地
- 住宅用地
- 工業用地
- 農業用地
- 公園等
- 道路等、河川等
- 農用地
- 森林、原野等
- 屋外利用地等



【拠点別の状況】

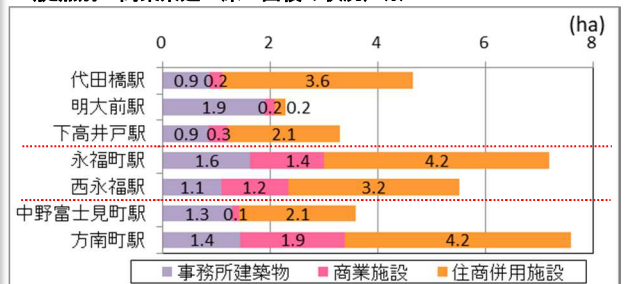


（乗降客数）平成28年（人/日）

路線名	駅名	乗降客数	路線名	駅名	乗降客数
京王線	代田橋駅	19,955	井の頭線	永福町駅	32,578
京王線	明大前駅	107,394	井の頭線	西永福駅	18,118
京王線	下高井戸駅	44,848	丸の内線	中野富士見町駅	19,025
			丸の内線	方南町駅	36,335

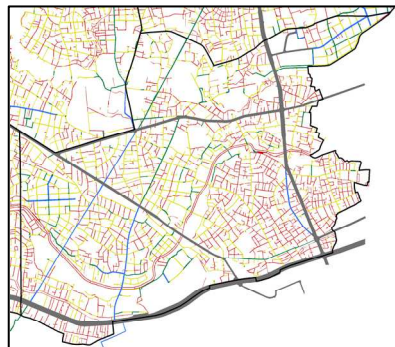
出典：国土数値情報 駅別乗降客数データ

（拠点別：商業系延べ床面積の状況）※



【道路幅員別現況図】

- 4m未満
- 4m以上6m未満
- 6m以上9m未満
- 9m以上12m未満
- 12m以上



※区境付近の駅に関しては、杉並区内のみの分析です。

